

氏名	ちえん しゃう ほう 銭 暁 波
学位の種類	博士(学術)
学位記番号	博甲術第16号
学位授与の日付	平成19年3月31日
学位授与の要件	学位規程第5条
学位論文の題目	日本と中国新感覚派文学に関する比較研究 —ポール・モラン、横光利一、劉呐鷗、穆時英 を中心に—
審査委員	主査 金田一 秀穂 副査 国松 昭 副査 藤井 明

### 学位論文の要旨

二十世紀二十年代末期から上海の文学界を中心に流行した新しい流派、新感覚派は欧米と日本の既成流派の影響を受け、当時の上海の文化環境を背景にし、都会の色に似合った前衛的な文学流派の一つであった。単純に芸術的な技巧だけを作品の中心とし、あるいは主要作家の政治の傾向、処世の態度などは時勢の主流と逆行する部分が多いことから、長期にわたり、主流文学からはずされ、異端的なものであるとしか評価されなかった。しかし、近年の中国において経済の発展、イデオロギーの多様化、都市文化の再構築など新しい動きとともに、商業都市上海を作品の中心として描き続けた、近代都市小説の象徴ともいえる新感覚派文学に対する再認識、再評価の声が非常に高まってきている。イデオロギーの変化によってかつて旧主流文学におさえられてきた新感覚派文学は今日のみならず、これから中国文学の発展の方向をみると、作品の中心的な思潮、あるいは描写の技巧などは再確立すべき、商業都市の都市型文化形態を中心とする未来の主流文学になる可能性もなくはないと筆者は思っている。

日本と中国に於ける新感覚派文学はともに欧州のモダニズムを継承したものだと思われる。とりわけ中国に於ける新感覚派文学はさらに日本の影響を多く受けていたといわれている。しかし、具体的にみると、文学の技巧の面に於いても、発展の経緯および方向に於いても両国の新感覚派文学は非常に相違のあるものだと考えなければならない。

プロレタリア文学との拮抗を契機に成長してきた日本の新感覚派文学はやがて芸術技巧派から脱皮し、時代の変動を背景に「左傾化」、あるいは「右傾化」、さらに一部

の作家のイデオロギーは国粹主義にまで変化する事実からみて、中国の新感覚派文学は単なる芸術的な、表現上、あるいは文体上の変革に没頭し、また主要作家は常に政治思想のアウトサイダーであるがゆえに思想上の発展がみられず、主流文学の舞台上に上がることがなく終息に向かったことは事実であった。

本稿は両国に於ける新感覚派文学の形成、影響と受容の関係、またはそれぞれの発展の方向性を論述の中心にし、翻訳による表現上の影響からはじめ、文体の技巧、作品の中心思想などの相違について具体的に検討を試みたい。

序論では、日本と中国の新感覚派文学の発足の状況についてまとめ、発足した当時から流派の基盤である同人誌の規模、文学に於ける思想性、方向性などの面に於ける両国の新感覚派文学の相違を見いだしたい。

第一章は、研究のデータの部分として、中国に於ける日本新感覚派文学に対する翻訳および研究の事情を紹介したい。果敢なる文学運動の一つである日本新感覚派文学に対して注目しはじめた二十世紀二十年代末期から今日に至るまでの、翻訳紹介された具体的な作品を分析し、その方向性を確認したい。また、翻訳紹介すると同時に行われた日本新感覚派文学に対する研究の成果をも取りあげ、二十世紀三十年代から今日に至るまでの先学諸氏のさまざまな見解をみておきたい。

第二章では、今日ではすでに忘れ去られたフランス前衛文学の代表作家ポール・モランを取りあげ、日本文壇の既成作家と新進作家の間に於けるポール・モランをめぐる論争について振りかえりたい。また、積極的にポール・モランの文学を受け入れた中国の新感覚派文学と、ポール・モランとの影響関係、とりわけ影響源について検証していきたい。

第三章は中国新感覚派文学の水先案内人劉呐鷗を中心に述べ、彼の生い立ちや文学の軌跡を振りかえりたい。また、劉呐鷗にとって生涯唯一となる日本翻訳小説集『色情文化』と創作集『都市風景線』について詳しく述べていきたい。

第四章では、劉呐鷗よりさらに新感覚派文学を発展させた「聖手」(優れた人)と呼ばれている穆時英の生涯および文学経歴を取りあげ、また、作品論として、穆時英の初期作である「CRAVEN “A”」と横光利一の「ナポレオンと田虫」をテキストに、両作品にあらわれているそれぞれの象徴の手法の性質を分析したい。

第五章では主に都市文学の角度からヨーロッパ・モダニズム文学と、日本と中国の新感覚派文学の共通点を検証したい。本稿の第二章で取りあげたポール・モランの『夜ひらく』をはじめ、横光利一、中河与一、劉呐鷗と穆時英の作品から、モダニズム文学の特徴の一つである「速度感」のあらわしている文体について分析を試みたい。さらに、劉呐鷗の翻訳文体を例に、日本と中国の新感覚派文学の影響と受容関係の成立の形式を検証したい。

最後に、日本と中国のモダニズム文学をよりふかく掘り下げていきたい筆者の今後の研究計画についてまとめていきたい。

## 審査結果の要旨

日本の新感覚派の影響を受けた中国文学者2名について、今まで中国では親日派として研究されることのなかった作品をとりあげ、非常に地道で確実、広範に資料を集め、実証的に論を組上げた。大変論理的な方法で、今までスポットをあびることのなかった文学を世に出した功績は大きい。

特にポール・モランについては、古い書籍を探し出し、日本—中国の関わりを明らかにした点、また、旧文学、上海文学について、さまざまな質問があったが、全てについて完璧に答えられ落着いていた。